



2025 年 7 月 25 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 テ ク ニ ス コ
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 関 家 圭 三
(コード番号：2962 東証スタンダード市場)
問 合 せ 先 常 務 取 締 役 経 営 サ ポ ー ト 本 部 長 相 原 正 行
(TEL. 03-3458-4561)

通期連結業績予想の修正及び特別損失計上に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2025 年 5 月 15 日に公表した 2025 年 6 月期（2024 年 7 月 1 日～2025 年 6 月 30 日）の通期の連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。また、特別損失を計上する見込みになりましたので、併せてお知らせいたします。

1. 通期の連結業績予想数値の修正（2024 年 7 月 1 日～2025 年 6 月 30 日）（単位：百万円未満切捨て、％）

	連 結 売 上 高	連 結 営 業 利 益	連 結 経 常 利 益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1 株 当 たり 連 結 当 期 純 利 益
前回発表予想（A）	3,460	△1,110	△1,220	△1,960	△213 円 80 銭
今回修正予想（B）	3,370	△1,440	△1,630	△2,780	△303 円 25 銭
増 減 額（B－A）	△90	△330	△410	△820	△89 円 45 銭
増 減 率（％）	△2.6	－	－	－	－
（参考）前期連結実績 （2024 年 6 月期）	4,683	△476	△318	△603	△67 円 48 銭

2. 修正の理由

前回発表予想（2025 年 5 月 15 日発表）にて、特に中国市場において景況感の悪化、価格競争の継続、一部顧客の需要減が重なったことにより、当初想定を上回る厳しい事業環境が続いていることをお知らせしました。

そうした事業環境を受け、現在、中国市場における製品ポートフォリオの見直しを進めておりますが、その一環として売上総利益率が大幅に低下したヒートシンク関連の在庫廃棄等を追加で行うことにいたしました。

また、5 月 15 日付「営業外費用（為替差損）、特別損失の計上及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」にて当社グループの生産設備を減損処理することをお知らせしましたが、さらに慎重に投資の回収可能性を検討した結果、減損損失は 356 百万円増加し、1,039 百万円を計上する見込みとなりました。

3. 特別損失の計上

（1）子会社に対する債権の株式化（デット・エクイティ・スワップ）の実施

当社の連結子会社の TECNISCO Advanced Materials Pte. Ltd. について、ウクライナ、中東などの世界情勢の不安定化などを背景に、お客様に試作案件の評価延伸や進捗遅れが見られ、計画通りに売上が進捗しない状況となり純資産が低下したことから、同社に対する貸付金の一部について、債権の株式化（デット・エクイティ・スワップ）を実施することにいたしました。

これに伴い、債権の株式化（デット・エクイティ・スワップ）により消滅する債権の帳簿価額と取得する株式の取得時の時価との差額の 685 百万円について、貸倒損失を計上する見込みとなりました。

（２）子会社における貸倒引当金繰入額の計上

当社は連結子会社である TECNISCO Advanced Materials Pte. Ltd. について、債権の株式化（デット・エクイティ・スワップ）の実施と共に、さらに、財政状態等を勘案し、同社への貸付金に対して 516 百万円の貸倒引当金繰入額を計上する見込みとなりました。

また、非連結子会社である TECNISCO EUROPE GmbH において、同社への貸付金に対して 5 百万円の貸倒引当金繰入額を計上する見込みとなりました。同社は欧州市場のマーケティングを目的としており、現在の営業状況に応じた処置となります。

（３）関係会社株式評価損の計上

当社は連結子会社である TECNISCO Advanced Materials Pte. Ltd. において、上記に記載しました理由から、同社の実質価値が著しく低下したため、460 百万円の関係会社株式評価損を計上する見込みとなりました。

また、非連結子会社である TECNISCO EUROPE GmbH においても、同様の理由から、3 百万円の関係会社株式評価損を計上する見込みとなりました。

（４）業績に与える影響

上記の特別損失の計上は、個別決算において計上されるものであり、連結決算においては消去されるため、連結業績への影響は軽微であります。

（注）上記の予想数値等の将来に関する記述は、発表日現在において入手している情報による当社の仮定及び判断に基づいており、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しております。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上